

令和4年度 行政評価「外部評価（政策評価）」

別紙2

1. 第二次千曲市総合計画 前期基本計画「成果指標」

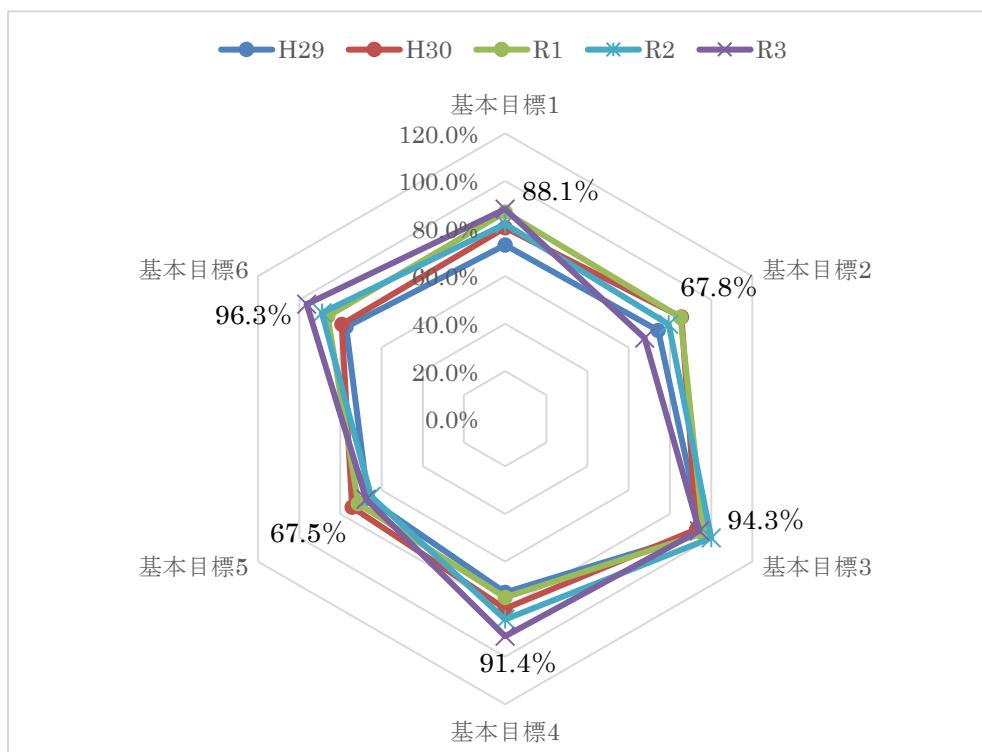
第二次千曲市総合計画「前期基本計画(H29～R3 年度)」では、まちづくりの達成状況を測る「ものさし」として、32 の達成方針(分野)ごとに「132 の成果指標」を設定しています。

毎年度の「政策評価」において、指標の達成状況を見ながら政策の展開状況を振り返り、「総合評価」としています。

「施策評価・総合評価」の結果等は、翌年度への改善に向けて取り組めるよう、実施計画や予算編成に反映し、「行政評価結果」としてまとめ公表します。



■基本目標1～6の平均達成率レーダーチャート（基本目標ごと）



	平均達成率				
	H29	H30	R1	R2	R3
基本目標1	73.1%	80.3%	86.9%	81.9%	88.1%
基本目標2	74.3%	85.6%	85.2%	79.4%	67.8%
基本目標3	95.5%	92.9%	96.3%	100.0%	94.3%
基本目標4	73.0%	79.8%	75.1%	84.3%	91.4%
基本目標5	66.7%	74.3%	71.3%	65.1%	67.5%
基本目標6	77.2%	79.3%	86.2%	88.9%	96.3%
平均	76.6%	82.0%	83.5%	83.3%	84.2%

○基本目標1 千曲の魅力で創生する賑わいと活力あるまち

分野全体の達成率は平成29年度から上昇し、近年は約8割以上の達成率を維持している。達成項目については、成果指標44項目中10項目以上を毎年度達成している。

【観光交流】を除く5つの達成方針において、平均して8割以上の達成率となっている。

【観光交流】は新型コロナウイルスの影響を受け、観光客や温泉宿泊者、訪日外国人宿泊者数において達成率の大幅な減少がみられる。一方、観光・地域情報の発信件数や体験イベント等の集客者数の達成率は平成29年度から大幅に増加しており、積極的な取り組みの成果が表れている。

○基本目標2 安心して子育てができ、のびやかに育ち学べるまち

分野全体の達成率は近年減少傾向にある。具体的には、子育て支援センターやファミリーサポートセンター、文化施設の利用者数の減少が顕著であり、新型コロナウイルスにより大きな影響を受けている。

達成率は減少傾向にあるものの、達成項目は令和元年度は10項目、令和2年度は8項目、令和3年度も8項目と、ほぼ横ばいの推移を維持している。

子育てアプリ登録者数は目標値には届いていないものの、平成29年度の123人から令和3年度は1,364人まで増加し、着実に登録者数を増やしている。

給食センターでは、平成29年度以降、令和3年度に初めて事故件数0を達成した。

○基本目標3 支え合い、だれもが健康で活躍するまち

分野全体の達成率は平成29年度から継続して9割を超えており、達成方針1~6の全分野で達成率が7割を超えており、

なかでも、「地域福祉」「保健・医療」「障がい者福祉」の達成率が高い。

新型コロナウイルスの影響により介護予防事業への参加割合が大幅に減少したが、その他に大きく減少した項目はなく、概ね安定した達成率で推移している。

○基本目標4 災害に強く、安全で心穏やかに暮らせるまち

分野全体の達成率は令和2年度に比べ増加しているほか、全ての達成方針で8割を超えており、令和3年度は達成項目数が6項目で、平成29年度以降過去最多となった。

「地球環境保全」では達成率の水準が高く、市民の環境への意識の高さがうかがえる。

○基本目標5 輝かしい歴史文化や美しい自然を未来に継ぐまち

分野全体の達成率は7割前後を推移し、毎年、基本目標6つの中で最も低い達成率となっている。成果指標11項目中、達成項目も毎年変化はなかったが、令和3年度は「景観形成」の建造物修理・修景事業において平成29年度以降初めて目標を達成した。

○基本目標6 協働で創る、市民主体の住みみたい住み続けたいまち

分野全体の達成率は年々上昇し、令和3年度は全分野の中で最も高い達成率となった。

「**広域行政**」の「連携事業数」、「**情報コミュニケーション**」の「ながの電子申請の利用率」は年々増加し、高水準で推移している。

「**市民協働・市民交流**」の地域づくり組織の数を増加させること等が、今後の課題となる。

■行政評価等外部委員会からの政策評価に対する意見等

■政策評価等

- ・継続中の事案については、刻々状況が変化するので、市民が評価を目にすると時タイムラグが生じ、評価に対し違和感があるのではないかと思う。できるだけ評価が早くできると良いと思う。
→年度終了後ただちに評価を行うことは困難ですが、ご指摘のとおりできる限り早く評価を行えるよう努めてまいります。
- ・提案されている（案）で結構です。
→ご理解をいただきありがとうございます。次年度からは第三次千曲市総合計画の評価を行いますが、新たな目標に向けて的確に検証を行い、事業を推進してまいります。
- ・各々の業績評価指標、成果指標のバロメータの羅列からの総評は難しいと思われ、基本目標に対してのグラフのみで考えるとまずまずの評価になりますが、なぜか県内住み心地および住みみたいランキング上位に千曲市が顔を出しています。
・それぞれのデータの集約からみる分析が必要なのではないかと考えます。
→ご指摘のとおり、調査対象、項目、手法、種類等の違いにより、評価結果も異なることから、今後も様々な観点から分析を行い施策に生かしていきたいと思います。
- ・効果が「上昇」している項目は確かに多く見られます。市も努力しているし、スマートさを感じます。行政自体に。ただ、それが実感として市民は感じているのだろうか？感じていないのは、やり方がいかにも先進的です。もっと泥臭いやり方、ダサいやり方もあります。
→事業の推進にあたっては、時代に則した AI の活用や DX の推進等、新たな手法を積極的に取り入れるとともに、効果的・効率的な様々な方法を検討しながら事業の実施に努め、市民の方にもわかりやすく説明していきたいと考えております。

■各指標に対する意見

○指標名：市の職員数

- ・単純に減らすことが目的ではなく、市民サービス等を下げる工夫、取り組みを継続していってください。
- ・職員数削減により市民サービスが低下しては本末転倒になってしまいます。
- ・絶対に災害がないという市ではないので、正規職員が減って会計年度任用職員が増えて、いざ災害が起きた時に、従事できる人員が少ないと困ってしまう。
- ・「DX化をするから、（職員を）減らせる」というものでもない。
- ・一時期、夜遅くまで(22時以降)庁舎の電気がついています。おそらく残業をしているのでしょうか。職員数対業務量のバランスはありますか。特定の職員へ作業が集中していませんか。人は組織の財産ですので業務管理は怠らないようご注意願います。
- ・誰にでもできるようなノウハウを水平展開して、作業負荷、バランスを、平均的になるように取り組んでいただきたい。
- ・必要な人数を、むしろ増やした方が、質のよいサービスにつながるのでは？

■各指標に対する質問等

○指標名：里山の整備

・達成率が極めて低い原因・理由は、解析できていますか。また、その対策は？

→指標にある里山の整備は、区や自治会、区の関連団体が、居住地に近い山の下草や下枝刈りを行う面積を示しており、ここ数年コロナ感染拡大防止のため、控えたり縮小しているため、低い数字になっています。森林づくり県民税が活用できるので、引き続き、区や自治会、区の関連団体へ周知してまいります。（一定以下（0.5ha）の面積の下草刈りや下枝刈りの申請はでてこないので、区や自治会が申請せずに行っている里山整備の面積について市は把握できていません。）

里山の中でも居住地から少し離れた民有林で手入れがされていない人工林については、防災減災を主な目的として国のガイドラインに沿って令和3年度から計画的に森林整備を行っています。（森林経営管理制度）

○指標名：地元産品を新たに使用する事業所数

・達成率が極めて低い原因・理由は、解析できていますか。また、その対策は？

→物産展などのイベントで農畜産物やその加工品の販売で出店した事業者間で話が進み、商談が成立するなど、当事者間の自主性・主体性に軸を置いていました。今後も事業者間の自主性・能動性を尊重しつつ、必要とされる際のサポートなどに取り組んでまいります。

○指標名：お試し移住件数

・達成率が低い原因・理由は、解析できていますか。また、その対策は？

→移住相談会・セミナーには、令和元年度が7回、令和2年度は7回、令和3年度は5回参加・出展しましたが、お試し移住（現地見学）は令和元年度に3件、令和2年度に2件で、それ以外の年度は応募がませんでした。相談会への出展が現地見学に直結するものではなく、むしろ移住を考えるお客様本人の人生設計とそのステージに千曲市が合っているかといったお客様の主觀が、現地見学に結びつかずか否かの分岐点となるのではないかと考察しています。今後も千曲市の魅力などをお伝えしながら、移住をお考えのお客様の相談に乗っていきたいと考えております。

○指標名：奨学金償還優遇制度利用者数

・達成率が極めて低い原因・理由は、解析できていますか。また、その対策は？

→平成30年度から事業を開始し、少しずつではあるが申請件数は増えつつあり、個人・市内企業からの問い合わせも増えてきています。

原因としましては、制度の周知が不足していること、他市でも類似の制度があることが考えられます。対策として、周知については、市報、ホームページに加え、昨年度には、ジョブカフェ信州にチラシを配置し、長野県の移住ポータルサイト「楽園信州」へ掲載、また、本年7月にはふるさと振興課と連携し、東京都で開催した「千曲市移住相談会」「移住セミナー」でのチラシ配布や、「銀座長野」「ふるさと回帰支援センター」にチラシを配置しました。今後の予定として、ふるさと振興課で作成予定の「移住パンフレット（仮称）」に掲載するなど、今後もふるさと振興課と連携して、申請者が増えるよう対策をしてまいります。

○指標名：不登校児童及び生徒の割合

・増えている要因は？

→不登校は一人ひとり様々な要因が複数に絡まっていることから、一概に申し上げることはできません

が、近年の不登校児童生徒の支援については、学校復帰を最終目標とせず、将来を見据えた、社会的自立のための多様な学びの支援が必要となってきたところです。今後、教育総務課としましては、教育支援センター（中間教室）の充実等に取り組んでまいります。

- ・自身らの独自調査によれば、中間教室というものはほとんど使われていない。

不登校の当事者たちへのアンケートを実施していただきたい。不登校の当事者たちは、本当に中間教室の利用や充実を望んでいるのかどうかというところの検証がなされていない。県の心の支援課で不登校への当事者アンケートをまとめたものがあるが、このように当事者たちが何を望んでいるのかというところをきちんと調査したうえで、じゃあどういう対策をしていくかということを考えいただきたい。調査や検証をせずに中間教室の充実に取り組んでも、まったく効果のない対策をされていくことになってしまう。

このことは8月にも教育長に提言というかたちでお話をさせていただいているが、ぜひ、この不登校当事者アンケートを市独自でも行っていただきたい。

→各小中学校および千曲市教育委員会教育相談室では、不登校当事者の児童生徒や保護者との面談や相談を行うなかで、意向を確認しながら、個別に応じた適切な支援や多様な学びの場の紹介をしているところであります。

また、現在、学校現場の状況を確認しながら、対応について見直しが必要である場合は、できるところから改善を行っているところであります。

よって、不登校の当事者へのアンケートにつきましては、長野県教育委員会での動向を注視しながら、慎重に対応したいと考えております。

○指標名：一人一日あたりのごみの排出量

- ・焼いている人が多いのでは？（野焼き）

→令和2・3年度においてごみの排出量が減少していますが、

①市民の皆様の排出抑制（ごみになるものを買わない、持ち込まない）の努力

②コロナ禍による事業系ごみの減少

が要因であると考えております。

また、ごみの野外焼却に関する苦情や相談があった場合、環境課職員が現場に急行し、行為者に対して廃棄物処理法に基づく指導を行い、野外焼却防止に努めています。その結果、近年の苦情や相談件数は減少傾向にあります。

○指標名：市が収集するごみのリサイクル率

- ・目標値が(令和3年度)22%で低いです。目標値をもっと上げて市民へのアピールをしてください。

→ごみ分別やリサイクルの大切さを、広報やごみ減量等推進員研修会等で、機会をとらえてアピールしてまいります。

なお、このリサイクル率の数値は、市から排出される、「総ごみ量（可燃ごみ・不燃ごみ・資源物の総量）」中における「資源物の量」を示しています。資源物として収集されたものは、容器包装リサイクル協会や紙問屋等の事業者を通じて、全量が有用にリサイクルされております。

また、資源物については、以下の理由等により近年市収集量が減少傾向にあり、リサイクル率の数値は低くなる傾向がありますので、目標値としては妥当であると考えております。

①市収集以外の排出場所の充実（スーパー・マーケット・ホームセンター等での資源物回収の実施）

②パソコン・スマートフォン等の普及による、新聞や雑誌等の紙媒体刊行物の減少

③容器包装廃棄物の軽量化（ガラスびん⇒プラや紙容器、ペットボトルの薄肉化など）

④コロナ禍による学校・PTA等の集団回収機会の減少

○指標名：市の審議会等における女性の参画率

・目標値が(令和3年度)40%で低い気がします。目標値をもっと上げてください。

→千曲市男女共同参画計画（R3～R7）では、市の審議会等における女性の参画率の目標値を40%として、千曲市男女共同参画計画審議会の答申を受けて計画が策定されています。R4.4.1 現在の参画率は29.8%であり、計画期間内に目標値を達成できるよう参画率の向上に取組み、次期計画の策定時に改めて目標値について検討してまいります。

○指標名：三世代同居・近居のための補助事業の利用件数

・なぜ事業終了なのか？

→令和2年度に第二次総合計画成果指標の目標値を達成したこと、アンケート調査の結果この制度が動機となり同居近居を決めた方が補助対象者の2%程度で、この制度による誘導という制度上の効果がみられなかったことから、制度見直しを検討した結果、終了としました。

・R2の40件の家庭の、その後は？感想などの聞き取りはしているのか？

→R2の方を対象としたアンケートは事業終了後のために実施しませんでしたが、前年度までは毎年度アンケートを実施していました。「補助制度があり助かった」「子育てに親の力を借りられるようになった」など概ね好意的な回答でした。

○指標名：マタニティタクシー助成券の有効期限満了時の利用率

・達成率が極めて低い原因・理由は、解析できていますか。また、その対策は？

→昨年度実施したアンケートで利用しなかった人の理由は、自家用車利用が約9割でした。

子育て世代でタクシーを利用する習慣が少ないことも原因と考えますが、より利用しやすい事業とするため、アンケート結果を考慮し、発行から1年間だった利用期間を2年間に拡大しました。

○指標名：市支援策による婚姻数

・増えていない理由は？

→結婚に対する個人の考え方など様々な要因があると推測しますが、市では改善に向け婚活ツアー（出会いの場の創出）や結婚新生活支援事業（経済的支援）に取り組んでいます。

・よく、「男性は千曲市内」「女性は千曲市ではない人も来てください」というような要件がある。これは、根本的に女のは千曲市に嫁に来なさいよという発想だと思うが、女性とすればやはり今の時代、受け付けないと思う。

そうではなくて、千曲市の魅力を発信したり、市内在住を問わず、千曲市に来て結婚をして住みたいという人たちが、そこで婚活ツアーをして、こんなにいいところならここに住もうか、というかたちをつくる、そういうことを考えていっていかないと、人口が増えるとか、子どもが増える这样一个につながらないと思うので、ぜひその点をお願いしたい。

→これまでの婚活イベントの参加状況をみると女性に比べ男性の申し込み人数が非常に多く、参加者の交流時間などにおいて偏りができるため女性においては広く募集をしております。

参加者数は男女同数が理想であることから、男性に対し参加要件に制限を付している場合もあります

が、委員ご指摘のような「女の人は千曲市に嫁に来なさいよ」という発想からではありません。なお、千曲市が参加している長野圏域8市町村による婚活ツアーの参加要件は、「男女ともに長野圏域内に在住、在勤、または移住を希望している方」としており、移住も視野に入れ、より多くの方にご参加いただけるような事業も実施しております。

○指標名：環境マネジメントシステムの取り組み事業所

- ・このご時世に、達成率が100%にならないことに大いに問題があると思います。環境を意識していない事業所が存在している認識でよいでしょうか。

→ISO(国際規格)やエコアクション21(国内規格)などの環境マネジメントシステムの認証の取得には、審査に要する費用や膨大な労力や知識が必要なことから、認証取得の申請をされていない事業所があると推測されます。認証を取得されていない事業所であっても、地球環境に配慮した企業活動に取り組んでいただいていると思われます。

市としましては、千曲市商工業振興条例「環境改善促進事業」や「国際規格登録事業」により「エコアクション21」等の規格を取得する事業者に対して、取得に要する経費の一部を助成しておりますので、引き続き広報等で周知を図って参ります。

○指標名：外来動植物等の年間駆除件数

- ・指標の意味・内容では、会議等による活動件数となっています。実績値は会議件数ですか。会議よりも駆除自体が重要です。実際の駆除件数は何件ですか。

→「千曲市環境市民会議」は、市民団体「特定非営利活動法人 千曲市環境市民会議」であります。実績値については、「千曲市環境市民会議」等の外来動植物の駆除活動件数となっております。令和3年度の駆除活動件数は、新型コロナ感染拡大防止のため例年より少なく2件でした。

○指標名：地域づくり組織の数

- ・数年間、達成率が0%のままでです。この原因・理由は、解析できていますか。また、その対策は？
- ・目標値9組織に対して、R3年実施値0組織となっていますが、目標達成に向けて、どのような状況になっているか知りたい。

→国の施策をもとに地域運営組織（地域づくり組織）の形成に向けて、先進地市町村の状況等の調査・研究に取り組んでまいりました。

令和元年度には新たに市民協働課が設置され、協働事業や地域づくり事業、区長会の事務等を行うようになりました。

地域運営組織（地域づくり組織）については令和2年度から先進地視察等を行い、情報収集や制度設計を行う予定でしたが、コロナ禍で見通しが立たないことから「令和6年度モデル地区設立予定」から「令和8年度モデル地区設立を目指す」と令和4年3月議会において説明してきたところです。また、この制度は地域住民が主体的に組織するものであり、市が強制して設立することは地域の自主性・主体性を損なうことになりますので、千曲市においては地域からの自主的な手上げ方式による設立を目指すことといたしました。そのため、当初の目標には至っておりません。

なお、今後は基本方針を確定させ、地域説明会や講演会を開催し機運の高揚を図ってまいります。

- ・「令和2年度から先進地視察等を行い、情報収集や制度設計を行う予定でしたが」ということになっているので、行われていないという認識でよいか。

ぜひ、これをやっていただきたい。成功しているところの話を聞きしたい。地域説明会や講演会を

開催されるとのことであるので、そのなかで市民に対し成功例についてお話いただきたい。

- ・そこにプラスして、視察もできればいい。

→令和2年度から4年度前半にかけてはコロナ禍のため先進地視察や研修、会議等が実施できず、インターネットや他の自治体職員に電話で話をうかがう等の限られた方法で情報収集を行い、調査・研究を行ってまいりましたが、制度設計には至りませんでした。

今年度はコロナが落ち着いた10月に上田市の協議会へ視察に行き、また、11月には高崎経済大学の櫻井教授を講師にお招きし、市民向けに、地域づくり講演会「実践に学ぶ　これからの地域づくりへのヒント」を開催し、他の自治体の実例を交えてお話をいただきました。

次年度からは先進地視察を行い、制度設計を進めながら地域説明会や講演会を開催する予定であります。説明会では、他の自治体の実例や実状も交えて説明させていただきます。

○標名：ICT産業の「空き事業所活用事業」の交付件数

- ・達成率が極めて低い原因・理由は、解析できていますか。また、その対策は？

→R3年度については空き建物活用2件、商店街空き店舗等活用事業9件の活用がありましたが、情報通信技術（ICT）事業者の活用はありませんでした。

第二次千曲市総合計画

まちづくりの目標体系

【将来像】

【基本目標】

【達成方針】

しなの
科野の国
史都がにぎわう 信州の交流拠点 千曲

基本目標①

千曲の魅力で創生する賑わいと活力あるまち

- 1-1 【都市基盤】交流を活発にする都市空間を整備する
- 1-2 【産業連携】連携による千曲市産業の基盤をつくる
- 1-3 【産業振興】多様な産業群のイノベーション(革新・刷新)による産業の活性化を図る
- 1-4 【観光交流】訪れたくなるまちを育てる
- 1-5 【雇用】安定した雇用を創出する
- 1-6 【移住・定住】住んでみたい、住み続けたいまちをつくる

基本目標②

安心して子育てができ、のびやかに育ち学べるまち

- 2-1 【子育て】「千曲っ子」を元気に生み育てられる環境をつくる
- 2-2 【教育】子どもがのびやかに育ち、生きる力を育む環境をつくる
- 2-3 【生涯学習スポーツ文化芸術】学びや芸術・スポーツを通じ、人と地域の魅力を高める
- 2-4 【男女共同参画】個性と能力を発揮できる男女共同参画社会をつくる
- 2-5 【多文化共生】国際性の豊かな人とまちをつくる
- 2-6 【人権・平和】人を大切にし、差別のないまちをつくる

基本目標③

支え合い、だれもが健康で活躍するまち

- 3-1 【地域福祉】ともに支え合う地域としきみを育てる
- 3-2 【健康づくり】健康な心や体を市民自らがつくる気持ちを育てる
- 3-3 【保健・医療】いつでも適切な医療を受けられる体制をつくる
- 3-4 【高齢者福祉】高齢者が生きがいを持って暮らせる環境をつくる
- 3-5 【障がい者福祉】障がい者の自立をみんなで支えるしきみをつくる
- 3-6 【生活支援】安定した生活を送れるまちをつくる

基本目標④

災害に強く、安全で心穏やかに暮らせるまち

- 4-1 【安全・安心】安全で安心な暮らしを確保する
- 4-2 【公園・緑地】花や緑があふれる潤いのあるまちをつくる
- 4-3 【上下水道】きれいな水の循環を保つ
- 4-4 【ごみ処理】「もったいない」の心を大切にする循環型社会をつくる
- 4-5 【地球環境保全】地球環境の保全を意識した社会をつくる

基本目標⑤

輝かしい歴史文化や美しい自然を未来に継ぐまち

- 5-1 【歴史・文化財】輝かしい歴史・文化的遺産を守り、未来に継ぐ
- 5-2 【自然との共生】ふるさとの自然に溶け込み、親しみ守る
- 5-3 【景観形成】景観の美しいまちをつくる
- 5-4 【食文化】郷土料理を伝えていく
- 5-5 【伝統文化】伝統行事や民話などを楽しみ、次代に伝承する

基本目標⑥

協働で創る、市民主体の住みたい住み続けたいまち

- 6-1 【市民協働・市民交流】市民と行政が協働する地域社会をつくる
- 6-2 【行政経営】将来にわたり持続可能な行財政運営をすすめる
- 6-3 【広域行政】近隣広域行政圏、国・県との連携をすすめる
- 6-4 【情報コミュニケーション】I C T を活用し、いつでもどこでも快適に情報の入手・発信ができる環境をつくる